

nouvelle Fontaine

発行日 2016年4月25日

発行 岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email: fontaine@sensyu.ne.jp

http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

今、去来すること

詩人 倉橋 健一



「協会10年の足跡」を見ていたら、戦後から岸和田市の文化活動の年表がつけられていて、1984年にはマドカホールが開館し、それを機に、市民サイドから文化振興をめぐるいろいろな提案活動が始められたことを知りました。

そういえば、私が岸和田市にお邪魔するようになったのは、1979年、市の社会教育に自習学習グループという自主的に社会人が学ぶことができるシステムがつくられてまもなくの頃で、「若葉」という読書会が発足して講師に招かれたからでした。おかげでさまざまなかたちで現在まで続いています。この初期の頃は、会が終わったあと、関係の行政の人たちとも一杯飲んで、市民運動のあり方や地域の文化のすすめ方などの未来像をめぐって、わいわい議論したものでした。

そのとき、私が思ったことに、岸和田市は大阪市と和歌山市のちょうど中間に位置し、昔は城下町で現在も泉南の行政の中心になっていて、JRと南海電鉄の二社線に恵まれ、共に特急停車駅にもなっていることから、ぜひとも、和歌山の文化と大阪の文化の相互交流の拠点になってほしいということがありました。そのひとつが和歌山出身の夭折画家田中恭吉展のマドカホールでの開催でした。

大正期、萩原朔太郎の詩集『月に吠える』に、初版では表紙をふくめて十一枚の挿画を飾った画家です。しかし、実際には、朔太郎が早くから恭吉の絵に注目し、詩集にはぜひ彼の装幀や挿画と思っているうちに、恭吉は

結核を重く病んで、郷里和歌山で臥せた身になっていました。それでもがんばって、その多くは劇薬を包んでいた赤い四角の紙に赤いインキで描かれた線画の状態のものでしたが、友人の恩地孝四郎の元に送られ、彼の手で死後、立派にこの名詩集を飾ることになりました。「世にも稀有な鬼才をもちながら、不幸にして現代に認められることが出来ないで、あまつさえその若い生涯の殆んど全部を不治の病床生活に終って寂しく夭折して仕舞った無名の天才画家」と朔太郎は詩集に附録として書きつけました。

たまたま、私はこの恭吉の作品や版木を含む遺品が、和歌山県立美術館に保存されているのを知っていたので、当時は場合によってはいっしょに交渉に加わっていいぐらいに本気で思っていました。つまり、ふだんは展覧会なども大型になればなるほど大阪に出かけるというケースが多いなか、大阪と和歌山の双方から岸和田へ呼ぶという地域機能を、岸和田はもっていると私は思うからです。

このときは絵の場合などは搬入の段階から保全などむずかしい問題があることも知りましたが、恭吉展そのものはのち和歌山で開催され、たいへんな反響を呼び、私も足を運びました。

と、これは一例ですが、自泉会館など建物自体にしてからが価値あるものですから、ぜひグローバルな視点をもっただけいたらと思っています。

奈良の七賢人の一人

智光上人 麻福田丸 (磨)

マブタさん

麻福田丸のことである。ときは天武天皇の時代(673年頃)。

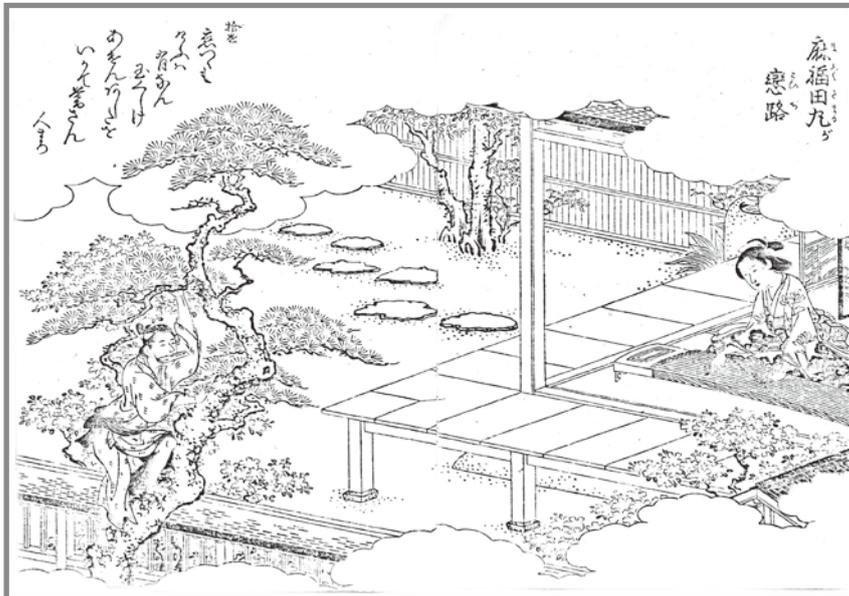
稲葉の大久保に生まれた。彼の家は大変に貧しかった。

16・17歳になった頃、中村(山直中村)の長者の娘を密かに恋するようになった。(一説には土井城主平松氏の娘)。然し貧富の差は如何ともしがたく、独り悶々の日々を送っていた。

ある日、人に頼んで手紙を書いてもらい届けてもらったが、数日を経て娘さんからの返事に「家が貧しいから字が書けないとか。貧しくとも勉強すれば書けます。自分で書いて手紙をください」としてあった。麻福田丸は、昼は一所懸命に働き夜は字の書ける人を求めて教えを乞うた。その甲斐あって字が書けるようになり思いの丈を手紙に書いて届けたが、返事に「自分で書けるようになってくれたのは大変嬉しいことであるけれど、手紙だけでは仕方がない。お会い出来る人になってください。それは立派なお坊さんになることです」。

麻福田丸は伝手を求めて河内国安宿部(あすかべ)郡鋤田村の寺に入り勉学に励んだのです。ある日また娘さんから手紙が届き「勉学してくれるのは嬉しいけれど、唯の勉学だけではダメです。立派な高僧と云われる人になってくださいと」。彼は人に敬われる僧になるために奈良の元興寺に入り修業に勤めた。その時、名も智光と改めた。

それから十数年、久方振りに故郷へ帰った智光の耳に入ったのはその娘さんの死という悲しい報



和泉名所図絵巻之三より「麻福田丸が恋路」

せであったのです。智光は世の無情を悟ると同時に、上人と呼ばれる地位にまで励ましてくれた娘さんに涙と共に感謝の合掌をしたと云います。

奈良に帰った智光上人は、学友の盛譽と彼女の冥福を祈って浄土の相を図画にした。この浄土図は、智光曼陀羅(注①)と呼ばれ、日本三大曼陀羅の一つに数えられ、毎年1月15日に麻福山大門坊極楽寺(注②)で法要が営まれる。また、この供養塔の前の田を智光田と呼ばれていたと云う。

別に諸国修業説によると旅の途中、風の噂で娘の死を知り、世の無常を悟り、智光法師と称し行基の弟子になったと。然し行基より先に入寂。行基は追善のために「麻福田丸が修業に出でし藤袴その片袖を吾ぞ縫いてき」と歌を詠み、この歌により行基の前身は長者の娘であったと云う。

注①

智光曼陀羅(広辞苑より)

浄土変相の一つ。

奈良時代の元興寺の僧・智光が夢に見た阿弥陀浄土を描かせたとされる。元本は焼失。鎌倉前期の板絵が元興寺極楽坊に伝来。

注②

大門坊極楽寺(麻福山大門坊稲葉大師極楽寺)

智光上人54歳の時の建立によると伝えられる。智光上人は「奈良七賢人」の一人で他に行基菩薩、自然居士、光明皇后、重源上人、和泉式部、道範上人だと云うが時代が合わない。元來宮寺であったが明治初年の神仏分離の時に廃絶となり昭和30年に再建された。智光上人の幼名を麻福田丸(磨)と云った。

地域に密着した施設でありたい

「Cafe のだて」

理事 小島 栄子・本郷 元子

岸和田駅山側のロータリーを右にとり、一筋目を右に入ると、緑の壁の可愛い“カフェ のだて”があります。

本協会の元広報部会長故和田正則さんが、13年間のロンドン生活の中で教会が地域の文化活動の中心的な支え手で、人々の集まる拠りどころであることに習い、多くの人たちに集まって欲しいと始められた店です。

現在は和田さんの妹の井出美穂さんが和田さんの意思を継ぎ、イベントなども積極的に取り組んでおられます。現状と将来について伺いました。

「和田さんが亡くなられてちょうど2年ですね。引き継がれてイベント実施をされるときはどんなお気持ちでしたか。」

当初からお店を手伝ってはいましたが、イベントには関わっていなかったので内容の実際は知りませんでした。兄は既に多くの申し込みを受けていましたので、兄亡き後直ぐに打ち合わせや実施が次々とあり、ホール使用者の方に教えていただきつつ経験を積んでいきました。ほんとに「あれよあれよ」という感じでした。



「和田さんは、徹底して『演奏者や創造者の側に立った運営』と言う方針でしたから、さぞ大変だったことでしょう。」

ええ、もう大変でした。兄は地域の文化活動の拠点となることを目指して、利益を度外視し赤字補填を自分でしていました。それは私には赤字補填は出来ないことなので、色々な面を工夫して経営を改善しました。方向を変えたことで苦情もありましたが、店が継続出来なくては全てが無に帰してしまいますから、「のだて」がここにあり、地域の方々に利用していただけるようにと考えています。

「今も多くのイベントをしておられますよね。」

現在月に7～8回あります。ホールを貸出しているイベントもこの頃は午後3時開演午後5時終了がほとんどになり、体も随分楽になりました。

「美穂さん自身の企画事業もされていますよね。」

ええ、自分が聴いて感激したら楽屋に飛び込んで、出演をお願いしたり、CDで感激した演奏者に電話依頼したこともあります。

「随分行動的ですね。」

ええ、イベントの楽しさを知って、ハマってしまいましたからね。

「その他にはどのようなことをされていますか。」

個室を貸し出して、語学学習、パソコン教室、ヨガ教室など現在7つの教室の利用があります。これをもう少し増やそうと思っています。

「『のだて』の今後の方針を、どのように考えていますか。」

やはり地域に密着して、地域の方々の色々な要望に沿ったご利用をいただけるようにと考えています。理想を言えば、入口にスロープを付け、バリアフリーのトイレの設置もしたいのですが、これは大変なことなのでなかなか…。

「のだて」・井出美穂さんの今後の挑戦を期待しています。

また、自泉会館との連携も探って行きたいと考えています。

歩いて岸和田のよさを知る 岸和田慢歩

第21回 「山滝中学校を中心に内畑町内をめぐる」



- ①下出口地蔵
府道から旧牛滝街道へ入る三叉路に祀られた地蔵尊。さほど歴史は古くなく、この場所で起きた交通事故の供養に建てられたといわれている。
- ②にしき木地蔵
「うしたき」「まきの」の刻印があることから、道標として建てられたと考えられる地蔵尊。かつては「にしき木」と呼ばれる木が側に植えてあり、毎年花を咲かせていた。
- ③内畑町下出地車庫
下出のだんじりは内畑町内に2台あるものの一つで、平成24(2012)年に上松町から購入。かつての内畑町には沢峯、西堂、辻堂、山口の各字もだんじりを保有していたとされる。
- ④大門口地蔵
昔、この付近を通った人が急に腹痛に襲われたものの、この地蔵を拝むとたちどころに治癒。ただし、そのときは橋の代わりとして、倒した状態で溝に架けられていた。そこで、地蔵像を起こして丁寧な祀った、との伝説が残る。

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、
散策することをおすすめします。

「岸和田慢歩」ではこれまでも何度か、山直・山滝地区を取り上げてきました。その中には内畑町内も含まれますが、紹介し切れていない地域も残されています。今回は、市立山滝中学校の周辺に残る神社などをめぐってきました。

理事 黒 猛夫

⑤山直神社

正式名は「山直太田総社」で、天照大神、スサノウ命、アメノホヒ命ほか3柱を祀る古社。創建年は不明だが、社伝によると山直氏の祖神であるアメノホヒ命によって建てられたとのこと。7世紀末ごろの文武天皇の時代、役小角（役行者）が本殿を造営したとも言われている。当時の社殿は焼失しているが、江戸時代初期に建てられた現在の本殿は、府の文化財に指定されている。

⑥長光寺跡

山直神社の向かいにある小山は「朝日山」と呼ばれ、かつてはこの地に百を超える寺院を含む長光寺があった。境内の入り口には、巨大な仁王門が建てられていたと伝えられている。

⑦塞の神

塞の神とは、禍いの進入を防ぐために祀られた丸い石を指し、山直・山滝地区では今も、同じような祠が数ヶ所残されている。

⑧明神橋

牛滝川に架かる橋で、かつては現在の場所より、少し下流に架けられていた。

⑨お旅所

山直神社のお旅所で、鳥居には享和4（1803）年の文字が見られる。10月の祭礼には山直神社から神輿が担ぎ出され、この場所まで渡御をする。

スタートは南海バスの下出口バス停から。府道を少し海側に降りると、旧牛滝街道とV字に分かれる交差点があります。そこに祀られているのが通称「下出口地蔵」。旧街道を山側にしばらく進むと、左側に建つ民家の前に「にしき木地蔵」が祀られています。そのまま、まっすぐ進み、山滝中学の角にあるのが「内畑町下出」の地車庫。交差点を右に折れ、坂を下って橋を渡り突き当たりを左側へ進むと通称「大門口地蔵」がぼつんと祀られています。さらに進んで交差点を右に曲がれば「山直神社」。もとの道に戻り、左に向かって道なりに行き、カーブミラーのある交差点を曲がらずに進んだところにある民家に「塞の神」の祠があります。民家の横を通って牛滝川の川沿いを伝い、左手に進むと「明神橋」が架かっています。橋を通ってまっすぐ進むと府道に出るので、信号を渡り左に曲がってすぐのところにあるのが「お旅所」。そして海側に進むと山滝中学校の前にある沢峯バス停に到着です。距離はそんなに長くないのですが、比較的、道に高低差があるので、春の季節は軽く汗ばむ運動量が得られます。物足りなさを感じるのであれば、第7回や第11回の慢歩で紹介したコースを含めると、より長い距離を楽しむことができますでしょう。

岸和田 あ・ら・か・る・と

『岸和田弁歳時記』 「山あそび」(ハルゴト)

理事 藤田 保平

山あそび。ていうても、そない大層な山へ遊びに行く訳やないど。

村外れの小高い丘やとか、村が見下ろせる池の堤とかへ、村中揃ろて弁当持って、まあ一日、ワアワア言うてゆっくりするだけやけどね。それぞれの村でその村その村のやり方あるんやけどね。「シガサ」て言う村もあるど。「四月の三日」が訛ったんぢゃ。まあその頃じゃ陽気も温くなつて、菜の花が咲き、桜の花も咲こかちゅう時分や。去年の十一月の亥の子の日に、山へ去んだ田の神さんを、ぼつづら①田植えの段取りせんならんで村へ戻ってもらわな、どんならん②さかいて「こない陽気も良うなつてまっせ」。「村中揃うてご馳走持って迎えに来てまっせ」ちゅうよな行事やったんや。それがい

つの中にやら、神さんそっち除けになつてもて、村の親睦会みたいな具合やけど、なんせ、娯楽の少ない時代の事。何や彼んやと理屈をつけては集まって、日頃は出来ない飲み食いの場をこしらえちゃったんや。そいでも、中には知恵者と言うか蒸煮^{しばはし}!!③が、山を下りる時に山草の軸を二三本採つて、「俺ア、今日ここ迄、田アの神さん迎いに來たて言う^{しるし}印に、この山草を俺の田アの^{みなくち}水口へ差しとこ」。そんな事も、今は昔の物語りになつてもたわ。

- 〈注〉 ① ぼちぼち又はそろそろ
② どうもこうもならない
③ お調子者





Ichigo-Ichien

齊藤 憲子



十三の春、このことばの意味を深く深く
教えられた。今それは私の深い深い
ところで鎮座している 玉泉書

『ベルばら』が好きなんです

小末 元恵

こう言うと大抵苦笑いか、気のない返事が返ってくる。ええ年して何言うてますのんという言葉を飲み込んでくださっているのだろう。

『ベルサイユのばら』は宝塚歌劇で何度も上演された漫画である。内容はさておき、名前をご存じではないだろうか。

この漫画に出会ったのは小五の時。ドラマチックな内容にたちまち虜になった。舞台化をきっかけに宝塚にも魅了された。大好きな物に近づきたくて、フランス革命やお芝居の原作本

を読みあさった。舞台の上の時代に興味を持った。ショーで使われた音楽を聞き、それが映画の曲であったなら、もちろん映画も観た。趣味を通じて心を通わせる友だちにも出会えた。

こうして少しずつ増えていったお気に入りたちが、今の私を作り上げている。根っこにあるのは『ベルばら』だ。もしこの関わりがなかったなら、全く別の人間が出来上がっていたのかもしれない。縁という物の妙味を感じる。大好きと言いつける由縁であります。

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

新春邦楽コンサート 箏・尺八の響 和洋融合

平成28年1月29日(金)
午後7時～

新春にふさわしく箏と尺八を基本として、和洋の融合を図ってみました。聴き慣れた曲、新しい曲、第1部と第2部との音色の違いに会場の方々は、うっとりしたり、びっくりしたりしていました。



〈皆さんの声〉

- ◆「和」の音色がたくさん聴けたのが良かった。第1部と第2部では、全く異なる音空間で刺激的でした。自泉会館のホールもマッチしていてステキでした。
- ◆和洋融合、とても面白かったです。特に第2部の箏と尺八、オーボエが斬新でした。まるでジャズを聴いているようでした。「枕草子絵巻」はホントに豪華で素晴らしかったです。
- ◆十七絃、音の低いのと太いの、それに高い部分とに圧倒されました。新しい発見に触れ、嬉しく思いました。またの機会が楽しみです。
- ◆「百花譜」が印象に残りました。なんとも言えない印象を受け、新たな出会いだったと思います。



第8回フレッシュプレミアムコンサート 最優秀賞受賞記念 原由莉子 ピアノリサイタル ～ウィーンの薫りとリストのピアノズム～

平成28年2月14日(日) 午後2時～

第8回フレッシュプレミアムコンサートで最優秀賞を受賞された原由莉子さんのピアノリサイタルが、自泉会館ホールで行われました。会場を埋め尽くした120名は原さんの演奏にウットリしていました。



〈皆さんの声〉

- ◆どの曲も物語があって、涙が止まりませんでした。幼少の頃がよみがえってきて、とても素敵な、人を感動させるピアニストに成長されたと感激で一杯でした。“幸せ気分”と“感動の涙”をありがとうございました。
- ◆今日は素敵な時間をありがとうございます！きらきら星と愛の賛歌は涙が出ました。それくらい心に響きました。
- ◆原さんの演奏を初めて聞きました。抒情的な部分がうつくしかったです。ウィーンのあらゆる雰囲気、響きを吸収して素晴らしい音楽を奏でて下さい。若手をサポートする素晴らしい企画です。
- ◆40年前に行ったウィーンと2年前に行ったウィーンの街を思い浮かべ、なつかしい午後のひとときでした。

第5回自泉ジュニアコンサート

平成28年3月6日(日) 午後2時～

オーディションで選ばれた小学生から高校生の15名が、日ごろの成果を競いました。優秀賞と最優秀賞に選ばれたお二人は、3月19日(土)にマドカホールで行われた第9回フレッシュプレミアムコンサート「未来へ～ここから～」へも出演し演奏いたしました。



〈皆さんの声〉

- ◆趣のある会場で、子ども達の奏でる音色の響きが心地よかったです。
- ◆発表会などは、また違う体験をさせてもらうことができ、とても勉強になりました。
- ◆市内でこのような発表の場を作って下さり、楽しんで参加させてもらいました。また、講評も的確にくださり、生徒ともども勉強させてもらいました。
- ◆まさにフレッシュな響きを聴かせてもらいました。

第9回フレッシュプレミアムコンサート 「未来へ～ここから～」

平成28年3月19日(土) 午後5時～
マドカホール(岸和田市立文化会館)

文化事業協会では、新人演奏家に演奏の場と技術を磨く機会と、市民に廉価で親しみやすいコンサート鑑賞の場を提供しています。平成27年度に4回開催された自泉フレッシュコンサートの出演者の中から優秀な方8名の方がお披露目をしました。

また今回は、第5回自泉ジュニアコンサートの優秀な2名の方も出演しました。

〈皆さんの声〉

- ◆若い人が育っていくのが、とても楽しみです。まじかで聴けることによって、聴く人も育って全体に成長していけばいいなど、楽しみにしています。
- ◆フレッシュな演奏が心地良く、心が洗われるような気分になりました。
- ◆フレッシュ“プレミアム”の名にふさわしい大変素晴らしいコンサートでした。これからの活躍が楽しみな若者たちでした。
- ◆初めてフレッシュコンサートを聴きましたが、すごく感動しました。またこのようなコンサートがあったら行きたいです。



岸和田文化事業協会の事業 Information



平成28年度 定時総会開催



平成28年度定時総会を下記の要領で開催します。

日時：平成28年5月28日(土) 場所：岸和田市立自泉会館
午後2時より

内容

第1部 「お茶の歴史」 講師：西念 秋夫(轟陶磁史料室)

※「茶の歴史展」を展示室で行っています。

第2部 総会 ①平成27年度事業・決算報告 ②28年度事業計画・予算案審議

※定時総会後に展示室で呈茶を予定しております。

茶の歴史展

日時：平成28年5月25日(水)～29日(日)
午前10時～午後5時

場所：岸和田市立自泉会館展示室

内容：奈良から室町の各時代に使われた
茶道具の展示をします。

入場無料 呈茶(300円)も予定しております。
展示期間中、午後2時～午後4時
(28日のみ午後3時～午後5時)



講演会「お茶の歴史」

日時：平成28年5月28日(土)
午後2時～午後3時

場所：岸和田市立自泉会館ホール

講師：西念 秋夫
(轟陶磁史料室)

入場無料(要予約)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化情報

「第67回岸和田市市展」への出品を募集いたします。

自作未発表のものに限ります。

資格 平成13年4月1日以前に生まれた人

出品料 500円

搬入場所 マドカホール 展示場(荒木町1丁目)

会期	部門	体裁	出品数	搬入日時
第1期	洋画	額装(ガラス不可)	1人1点	5月10日(火)・11日(水) 午後1時～7時 展示期間 5/15日～22日
第2期	染織	額装・屏風・着物・タペストリー・オブジェ等	1人2点以内	5月24日(火)・25日(水) 午後1時～7時 展示期間 5/29日～6/5日
	陶芸	皿立て等、装飾的付属品不可	1人1点	
第3期	書	額装・軸装・裱装・衝立・屏風・帖・巻物・刻字	1人1点	6月7日(火)・8日(水) 午後1時～7時 展示期間 6/12日～19日
	日本画	額装(ガラス・アクリル不可)	1人1点	
第4期	写真	パネル張り・額装(ガラス・アクリル不可)	1人1点	6月21日(火)・22日(水) 午後1時～7時 展示期間 6/26日～7/3日
	俳画	額装・軸装	1人2点以内	

※作品の額縁などにはつり下げ用のひもを必ず付けてください。

詳しくはマドカホールにて配布中の募集要領をご覧ください。

問合せ先：マドカホール 電話：443-3800 月曜日休館

弦楽四重奏で巡る音楽世界旅行

日時：平成28年5月20日(金)午後7時開演

会場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：ロイド弦楽四重奏団
ヴァイオリン：中野 千瑛・三宅 恵
ヴィオラ：中野 祥世
チェロ：長瀬 佳音

【演奏予定曲目】

ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」より

モーツァルト：弦楽四重奏曲第14番「春」より

その他、ロイド弦楽四重奏団オリジナルアレンジによる世界各地の名曲

入場料：1,500円(当日500円増)

平成28年度(平成28年4月～平成29年3月)

会員募集

年会費 個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円
(入会費不要) 家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。

郵便振込の場合は

口座番号 00970-9-28145

加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

nouvelle Fontaine vol.51

発行：岸和田文化事業協会

発行日：2016年4月25日

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

本郷元子・黒木幸子・小島栄子
歯黒猛夫・藤田保平・堀野和人

編集後記...

本を読むことがあまり好きでは無く文章を書くのも苦手な私が、広報部会で何ができるのか...と、早1年が経とうとしています。

「へ〜」「そうなんや」「難しい漢字やなあ」「何回も読まへんと理解できひんなあ」とか思いながらいつも校正しています。

それがまた、楽しいし嬉しい!

さて、今回の「ぬーべるふおんてーぬ」はいかがでしょうか?

(黒 木)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索